



.....

## SWIFT、インスタントでフリクションレスな送金を実現するための戦略を着実に前進、2022 年にはグローバルな展開を目指す

.....

- インスタントで、エラーや手戻りのないフリクションレスな送金の実現に向けて 2021 年に重要な進展を達成
- SWIFT の戦略は金融コミュニティの幅広い支持を得て、戦略的サービスをグローバルに展開
- 2022 年は ISO 20022 への移行により金融業界での変革が加速するとともに SWIFT は先進的な基盤を稼働開始

### 2021 年 12 月 14 日、ブリュッセル

SWIFT がインスタントでフリクションレスな口座間の送金を実現するという大胆な戦略を発表してから 1 年が経過しました。本日は主要な項目について、2021 年に実現した進捗をご紹介します。SWIFT は、小口送金の処理時間削減と透明性の向上、送金の事前検証によるフリクションの軽減、マルチフォーマットを利用した豊富な情報を含む電文の伝達等数々の取り組みを実現してきました。また、CBDC（中央銀行デジタル通貨）や新しいデジタル資産を国際送金のフローに統合する実験や、金融市場インフラとのリアルタイム相互接続の実証実験にも取り組んでいます。

SWIFT が 2021 年にコミュニティに投入したイノベーションは、金融業界の変革を支える戦略的対応の中心となっています。これらのイノベーションは導入が進行中で、2022 年以降その浸透はさらに加速していきます。今すぐ利用可能なサービスは、次のとおりです。

- **迅速かつ安価な小口国際送金** 2021 年 7 月に開始した SWIFT Go は、個人や中小企業の小口国際送金におけるユーザーエクスペリエンスを大幅に向上しています。銀行は、エンドユーザーに対して、事前に処理時間とコストを可視化することにより、予測可能で、安全性の高い送金サービスを提供することができます。すでに 120 を超える主要銀行が参加するこのサービスは急速に導入が拡大しています。
- **事前検証によるフリクションのない国際送金** 送金の事前検証により、国際送金の処理が途中で停止したり遅延したりする原因のひとつである不正確な受取人情報を排除することができます。このサービスによって、銀行は支払指図の送信前に受益者口座の詳細を確認し、タイプミス等の不正確な口座番号を事前にチェックできます。
- **豊富な情報量による顧客サービスの向上** SWIFT は 2021 年 11 月に、翌年開始される MT から ISO 20022 への移行を容易にするため、インフロー変換サービスの提供を開始しました。このインフロー変

換は、2025年11月までのISO移行期間中に、既存システムの円滑な運用を維持しつつ、各自のペースで新たな標準に移行できるようにするための鍵となります。

上記のような数々の進展は、SWIFTの力強いモメンタムに基づいています。SWIFTの利用トランザクション量は、本年も2桁の成長を続け、11月には一日で5,030万件という過去最多のメッセージがネットワーク上で交換されました。また、SWIFT gpiとSWIFTコミュニティは、国際送金の処理時間と予測可能性の見直しに取り組み、送金指図の大部分が秒単位で実行されるようになりました。送金のほぼ半分が5分以内に受益者に入金され、3分の2はコンプライアンスチェック、為替管理、その他の国際送金に関わる手続きがあっても30分以内に処理が完了しています。それ以外の送金もほとんどは同日に処理が完了しています。

上記に加え、SWIFTはより広義のイノベーションとして2021年に以下の取り組みを優先的に実施しました。

- **CBDC（中央銀行デジタル通貨）**

SWIFTのプラットフォームをいかに進化させ、中央銀行のデジタル通貨（CBDC）のクロスボーダー利用とどのように相互運用が可能か積極的に研究、実験をしています。異なる市場インフラ間の相互運用性が成功の鍵となると考えています。

- **金融市場インフラ間の相互接続**

リアルタイムでの国際送金の推進は、リアルタイム対応をした市場インフラと金融機関との連携によって、世界中でより迅速かつシームレスな取引を可能にします。10月にはSWIFTは、欧州のEBAクリアリングと米国のThe Clearing House(TCH)との実証実験を発表し、既存のインスタント・ペイメントシステム間の決済についてBIS（国際決済銀行）のCPMIターゲットに沿ったスピード・機動性を実現するための可能性について実証しました。

- **迅速なイノベーション**

SWIFTは、業界の変化を推進するという観点からイノベーションの創出を進めており、その一環として、2021年に多くのイノベーション案件を実施し、顧客にとっての最重要領域での迅速な開発を実施しています。たとえば、SWIFTはイノベーションチームで、新しいサービス機能の開発を視野に入れてAIや機械学習などの分野を研究しています。

## **2022年を見据えた変革の加速**

2022年にSWIFTは、世界の小口国際送金基盤であるSWIFT Goの提供により世界の金融界全体に新サービスをさらに浸透させる計画をしています。2022年前半に予定されている事前検証サービスの改良により、対象範囲の拡大と正確性を高めるための高度な予測分析を導入します。

また、SWIFTの機能をメッセージングの枠にとどまらない、プラットフォームとしての強化に着手しています。このプラットフォームでは、エンド・ツー・エンドのトランザクション・マネジメント（取引管理）を提供し、金融機関と他機関との相互運用を統合管理することでフリクションの最小化、処理時間の最適化、透明性と予測可能性の向上を実現します。

このプラットフォームは、より迅速な決済、強化されたエンド・ツー・エンドのデータ利用、付加価値サービスを備えた新たな体験の提供を実現することで、200カ国・地域以上の40億口座を結ぶSWIFTのネットワーク全体で真に迅速でフリクションのないサービスを可能にします。2022年をサービス開始の出発点とし、新たなプラットフォーム上で処理される電文量は2023年、更にその先と順次増加される見込みです。

SWIFTが推進している変革は、金融コミュニティから幅広い支援をいただいています。

バンク・オブ・アメリカのグローバル・トランザクション・サービス部門ペイメント・ストラテジーの責任者であるDavid Kretz氏は次のように述べています。「この一年を通じSWIFTは、2022年のクロスボーダー決済の変革の基礎を構築しました。特にISO 20022への移行は、決済メッセージのデータの質を向上させ、グローバル規模の決済全般において一貫した処理を可能にし、企業と金融機関の両方のユーザーにとっての効率性と見識を向上させることでしょう。」

中国銀行（Bank of China）のクリアリングの責任者であるFan Yaosheng氏は次のように述べています。「2020年に導入されたSWIFTの新しい戦略は、国際送金の画期的なスタートでした。この戦略がより広範な金融コミュニティとの迅速かつ密接な連携により進展していることを歓迎しています。SWIFT戦略は、業界にとって無数の新しい機会を約束し、これらの利益を自社の顧客にもたらすことができるという点で魅力的です。」

バンク・オブ・ニューヨーク・メロンの決済・トランザクション部門グローバルヘッドのMike Bellacosa氏は次のように述べています。「国際送金において、当行の顧客はセキュリティ、顧客体験、コスト効率を重要視しています。この1年に行われたSWIFTの取り組みは、当行顧客へのサービス向上に役立ち、戦略のさらなる具体化に伴って、一層強化されると期待しています。」

BNPパリバのトレード・ペイメント部門のキャッシュマネジメント長であるPierre Fersztand氏は次のように述べています。「SWIFTコミュニティは、銀行や市場インフラでのISO 20022の導入が進展し、進化するSWIFTプラットフォームを使って、今後数年で国際送金のイノベーションを加速させるよう準備をしています。企業は、この過程において不可欠なプレイヤーであり、BNPパリバでは、企業顧客が複数年にわたるロードマップを構築できるよう支援をしています。当行はSWIFTが業界のコラボレーションのための場所を提供することを支持しており、そこでともに迅速でフリクションのない、コンプライアンスが確保されたデータの豊富な国際送金を実現していきます。」

シティバンクのTreasury and Trade Solutions Payments and Receivablesの副部門長であるAmit Agarwal氏は次のように述べました。「当行は、より広く展開可能なマーケット・インフラの相互連携モデルの開発、およびクロスボーダーに向けたオープンなインスタント・ペイメントシステムの標準の作成において、イノベーションのドライバーとしてのSWIFTの役割を強く支援しています。この開発は、サービスを大きく改善し、年中無休で即時送金可能な顧客体験への道筋を示しています。さらに、この合理化された決済モデルは、増大するeコマースや市場取引決済への利用、経済全般の発展に寄与する可能性を秘めています。」

ドイツ銀行キャッシュマネジメント部グローバルヘッドのOle Matthiessen氏は次のように述べています。「ドイツ銀行の顧客戦略を完全に補完する受益口座事前検証（BAV）サービスが最近開始されたことを当行は喜ばしく思っています。SWIFTやBAV分野のコミュニティとのパートナーシップやコラボレーションを継続し、不正取引や例外処理を減らしつつ、国際送金の効率を向上させることで、最終的に当行の企業及び金融機関顧客の両方に利益がもたらされることを期待しています。」

HSBCのPayments Products Management部門グローバルヘッドのTom Halpin氏は次のように述べています。「SWIFTネットワークの規模は、フリクションのない国際送金を可能にし、急速に変化する顧客ニーズに

適応できるように業界の変化を促進するために不可欠です。HSBCにとって、SWIFTは重要で協調的なパートナーであり、顧客のビジネスを助けるイノベーションを促進することに共にコミットしています。」

J.P. モルガンのFinancial Institution Payments部門グローバルヘッド兼OnyxのCEOである Umar Farooq氏は次のように述べています。「SWIFTが、イノベーションとデジタル化の継続的進展に対する金融業界の期待に沿った世界的な送金基盤となるインフラの変革に焦点を当てていることを、当行はうれしく思っています。」

スタンダードチャータード銀行のキャッシュマネジメント部門グローバルヘッドのPhilip Panaino氏は次のように述べています。「新しい戦略が発表されて以来、当行はSWIFTと協力して、今後の業界の送金に関するビジョンの共同作成に取り組んでいます。本年実行されたイノベーションは不可欠なものであり、当行顧客が最も重視する分野のイノベーションとして、SWIFTと協力していきたいと考えています。」

ウェルズ・ファーゴTreasury Management部門グローバルヘッドのPaul Camp氏は次のように述べています。「今年、SWIFTの新しいサービスと機能強化がいくつか見られたことは喜ばしいことです。SWIFTとのオープンな対話と、当行のグローバルなトランザクション・バンクの優先事項を理解するSWIFTのコミットメントを評価しています。」

####

## 国際銀行間通信協会（SWIFT）について

SWIFT はメンバーによって保有されたグローバルな協同組合であり、安全な金融メッセージングサービスを提供するリーディングプロバイダーです。SWIFT は金融コミュニティに対し、通信に必要なメッセージングおよびその標準化を支えるプラットフォームのほか、決済ネットワークへのアクセスやシステムの統合・連携、認証、分析、規制コンプライアンス等にかかる製品およびサービスを提供しています。

SWIFT は 200 を超える国と地域における 11,000 以上の銀行、証券会社、市場インフラ、事業法人等をつなぐ通信プラットフォーム、および各種製品・サービスを提供しています。SWIFT 自体は資金を保有せず、顧客の口座を管理しないものの、グローバル・コミュニティのユーザーに対し、金融メッセージを確実に交換する方法を提供することで安全なコミュニケーションを可能にします。これにより、国内外の金融取引に加え、世界中の貿易と商取引を支えています。

SWIFT は信頼できるプロバイダーとして卓越した運用を絶えず追求し、コミュニティによるサイバー攻撃への対処をサポートします。またコストを軽減し、リスクを削減し、業務の非効率をなくす方法を常に模索しています。当社の製品およびサービスは、コミュニティ内のアクセスと統合、ビジネス・インテリジェンス、参照データと金融犯罪コンプライアンスのニーズをサポートします。また SWIFT は国際・地域・国内レベルで金融コミュニティを取りまとめ、市場慣行の形成やスタンダードの定義、共通の関心分野に関する議論を推進しています。

SWIFT はベルギーに本社を置き、国際的なガバナンスと監督を通じて、組合体制の中立的かつグローバルな特性を発揮します。また、グローバルなネットワークを通じて、すべての主要な金融センターで積極的に活動を展開しています。

報道関係者からのお問い合わせ先

ウェーバーシャンドウィック SWIFT 担当 トウ、原田

03-5427-7411 / 03-5427-7383

swiftjapan@webershandwick.com